

■尾張浜主 尾張氏楽人貴族。熱田神宮の雅楽支配に対応、超長寿にすることで、大戸清上に代わる“笛の祖”に祭り上げられた。
おわりのはまぬし
風土記完了・ 733＝ 尾張氏に生まれる。のちに、熱田神宮に仕える雅楽が特異な力を持ち、伝承が作られたらしい。

藤原四卿没・ 737＝ 4歳：

堀田永世法・ 742＝ 9歳：

懐風藻・・・ 751＝18歳：
_孝謙朝(749～758年)において「採桑老」を舞い、天皇の勅により「蘭陵王」の俘を改めたという。

光明皇后没・ 760＝27歳：

宇佐八幡神託 769＝36歳：

・・・・・・・ 778＝45歳：

桓武天皇即位 781＝48歳：

・・・・・・・ 787＝54歳：

平安京遷都・ 794＝61歳：

・・・・・・・ 796＝63歳：

大事業中止・ 805＝72歳：

桓武天皇没・ 806＝73歳：

薬子の变・ 810＝77歳：

凌雲集・・・ 814＝81歳：

嵯峨上皇・・・ 823＝90歳：

仁明天皇・・・ 833＝100歳：仁明天皇即位大嘗祭において、舞曲「河南浦」をつくり舞ったとされる。_大戸清上は、この時の雅楽整備のため、多くの作曲、改曲をしたと伝えられ、

・・・・・・・ 834＝101歳：_藤原常嗣を大使とする事実上最後になる遣唐使の任命があり、横笛を能くする大戸清上が外従五位下を授けられ、宿禰姓を賜っている。

空海没・・・ 835＝102歳：出発するも、難破等で引き返すことなどが続き、

最後の遣唐使 838＝105歳：_ようやく、唐に渡り、舞の誤謬を正し龍笛の底を極めて、

遣唐使帰国終 839＝106歳：*帰国したとする伝もあるが、この年、外従五位下になったというのが初見であることから、
_おそらく、大戸清上が乗った遣唐使の帰還船が遭難、漂流先の海賊に殺害されてしまったことにより、すりかえられたと考えられる。この遣唐使には、琵琶道の祖とされる藤原貞敏も同行していて、琵琶道の奥義、三秘曲、名器“玄象”等を将来している。

承和の変・・・ 842＝109歳：

・・・・・・・ 845＝112歳：*大極殿で行われた最勝会に際して、舞(和風の長寿楽、別名「春鶯囀」)を制作し、自ら上表して演じることを請い、1000人を超える観覧者の前で舞った。この時に年齢が数113歳と記され、フグの模様のようなシミがある老人の姿で、起居するのも困難な様子であったが、曲が流れると少年のように舞い、四方の観客は皆
'浜主は本当のまさに伶人(楽舞の人)である'と言ったと伝えられる。その翌々日には仁明天皇に召されて清涼殿でも長寿楽を演じ、天皇は感心して誉め称え、左右の者は感涙し、天皇から御衣を下賜された。この舞の後に詠んだ'翁とて佐やは居らむ草も木も栄ゆる時に出でて舞ひてむ'が、愛国百人一首にある。

良房右大臣・ 846＝113歳：_再び天皇に召されて清涼殿で舞を舞い、天皇にその高齢を憐れまれて、内位の従五位下に叙せられ、まもなく没したと思われる。

Wikipedia「尾張浜主」、磯水絵「説話と横笛 平安京の管絃と楽人」、